

平成26年度第2回 英語学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

日時：平成26年7月19日（土）17：00～19：00

場所：私立大学情報教育協会会議室

出席者：田中宏明委員長、小林悦雄委員、松村豊子委員、五十嵐義行アドバイザー（事務局）井端事務局長、森下主幹、

検討事項

1. 本日の記録担当

田中が担当することとなった。

2. 配付資料

- ・議事次第
- ・委員名簿
- ・「現在の授業で顕著な効果を上げている事例」
- ・「英語教育におけるアクティブ・ラーニングの事例研究開催要項①」
- ・対話集会に関する事項（メモ）②
- ・「ハーバード大学とMITのアクティブ・ラーニング視察報告」
- ・「アクティブ・ラーニングの実質化に向けて」
- ・「「学ぶ」から「できる」へ -経営系科目のアクティブ・ラーニング-」
- ・アントニー・ローレンス氏の紹介文
- ・WASEDA: e-Teaching Award
- ・専門教育と英語教育
 - ICTを活用したESP(English for Specific Purposes)教育 2つの事例-
- ・Barrel アクティブ・ラーニングの学習効果に関する検証

検討事項

1. アクティブ・ラーニング事例研究の対話集会の進め方について

- ・開催内容、話題提供の内容検討
- ・開催要項のとりまとめ

2. 対話集会に向けた今後の進め方について

3. その他

検討内容

今回の検討事項は、来年3月に予定されている対話集会の内容を主であった。基本的に下記の内容でおおむね合意を得た。

1. 英語教育におけるアクティブ・ラーニングとは、他の分野のPBLとは異なり、英語の知識の蓄積とそれを実践する演習活動とする。今回の対話集会までに、アクティブ・ラーニングとは何か、それは何のために行うのか、そしてアクティブ・ラーニングを実質化するための課題等がある程度まとめる。
2. 大学の英語教育にアクティブ・ラーニングをいかに導入して、今後の英語教育をどのように行っていくべきかの事例を紹介する。

3. 大学の中で英語を使わないと活動できない環境設定などについても検討してみる。使う場面を提供し、各大学がそれを取り込むヒントを提供する。
4. 対話集会は今後3年程度行うので、初年度にあたる来年3月の対話集会は大学初年次教育における英語教育に焦点を当てる。したがって、以前に検討を行ったESPとは別の内容とする。
5. 英語学教育FD/ICT活用研究委員会の委員または委員の推薦する者が事例紹介を行う。立教大学の「ディスカッションエイト」などの紹介もあった。